

**同窓会会報**  
第27号

昭和53年12月20日  
発行所  
茨城県東茨城郡  
内原町鯉淵5965  
鯉淵学園同窓会  
印刷所  
(有) 双葉軽印刷所

## 鞍田名誉学園長御逝去

### 9月10日学園葬挙行さる



部代表者等が参列された。

九月十日、鯉淵学園講堂において、吉川学園長を葬儀委員長として、農林水産省、茨城県、各農業団体、先生の友人、学園関係者並びに学園同窓生の参列を得て学園葬がとりおこなわれた。会葬者数約四百名余、その大半は学園卒業生で、全国各地から続々とつめかけ、先生のご冥福をお祈りした。

鯉淵学園の発展に多大のご尽力をなされ、学園教育の礎を築かれた、名誉学園長鞍田純先生は、去る八月十三日午後一時五十分、入院中の水戸市、協同組合病院において、急性肺炎心不全のため急逝された。

翌日の八月十四日に通夜、十五日には近親者による密葬がとりおこなわれ、学園職員、学生代表者並びに同窓会近県支

花束に囲まれた先生の遺影が何かを問いかけていような式場、シーンと静まりかえった中で、次から次へと朗読されるお別れの言葉は、先生の遺徳を偲ばせ列席者の涙をさそった。

「鯉淵学園同窓会会長和田文雄殿」、とうながされるままに和田会長が、本会を代表して次のような弔辞をご霊前に捧げた。



「謹んで、鞍田先生の御霊に申し上げます。先生、四月には、同窓会大会にお元気な姿で御出席いただき、長年の夢でありました同窓会館の落成を、全国から集った仲間と一語に喜んでいただいたのも束

の間、今日こうして、先生にお別れの言葉を申し上げることになるとは、まだ本当とは思えないのであります。顧みれば、先生がこの私達の学園に御赴任されましたのは、戦後の日も浅い昭和二十三年でありました。この時期は新

しい出発の時代でありました。新農村の建設、農業改良普及制度の発足に即した普及員の養成と、希望に満ちていました。しかし、社会的な混乱は、学園にも不安を招き、いくつもの問題をはらんでいました。そうした時代に先生は、学園の未来ある前途を求め、情熱の絶える間もなく、私達を導き、学園の発展に心血を注いで来られたのであります。

先生、先生が「日本農業の発展は、政治経済によって間接的には規定されるが、直接的には農業者それ自身、就中、農村の現場にあつて指導的役割を果そうとする者の努力にかかっている。諸君がその一員になることを期待する。」と申され、学習、農場実習、寮生活の全てにおいて自主的であり、責任ある態度をもつて相互に研鑽する学園を創り上げる努力をすることを、全寮自治生活の中で達成する途をつくつて下さつたのであります。

そしてその道は今も全国の農村に向いて開かれていきます。私達鯉淵の同窓生は四千あまり、全国どこの地にあつても、いかなる職業について、先生の教に支えられ、また自分のもので胸をはって働いております。県別の同窓会支部の集りや同期生の集りに、先生は御出席されることを楽しみにしておられました。その時には、にこにこ話を聞かれながら必ず、私達に次の生き甲斐に向けての教を与えて下さつたのであります。

しかし、もう先生のお話を聞くことも

できません。先生の御前で、いまはまだその教をかみしめているのみであります。先生を失つたいま、私達はその御教訓を思い起し、これからの農業の発展のため尽くすことお誓ひいたします。

願くば、天上にあつて私達に絶えず真理の光を投げかけ、前途を照し導いて下さい。

今、先生との長いお別れにのぞみ、御冥福を心からお祈り申し上げて弔辞いたします。

昭和五十三年九月十日  
鯉淵学園同窓会会長 和田文雄

私達同窓の心の支えでもあつた鞍田先生、学園長を退いた後は、学園舎宅に住いし、同窓生等の要請に答えて、講演や文筆活動を続けるかたわら、生活栄養科の農村生活総論を担当してこられた。家庭にあつては、学園舎宅での生活をこよなく愛し、屋敷内に生育する長半の管理や整枝した枯枝を利用して風呂焚きをされるなど、先生らしい一面をみせていた。

先生の農業教育に尽された功績に対し勲三等瑞宝章が贈られた。近くは、学園から、著作論目録他教編がまとめられて発行される。

今は亡き先生の志を継いで、日本農業の発展のため、尽くすことが、先生のご忠告に響ゆる道のように思われる。

## 鞍田先生 『農村生活総論』 出版について

鞍田純先生著作論文目録編集委員会ではこのたび「徳ぶ」鞍田純先生の遺稿と著作論文目録（全二四六頁）を先生の詳細なメモをもとに完成致しました。

この著作論文目録作成の過程で先生が晩年力をこめて講義された「農村生活総論」の原稿（四〇〇字詰で四百数十枚に及ぶもの）が発見されました。「はしがき」までついた立派な原稿です。先生の農村生活論につきましては日本農業新聞の「視点」などで共鳴されていた方々も多かったと思いますがこれはその完成されたものといえると思います。

現在いくつかの出版社に発行の交渉を~~~~~集委員会~~~~~

してありますが農業軽視の続く当節、農業専門書の出版につきましては出版社も慎重です。一人で多くの購入希望者があらわれることが必要な情勢です。同窓生の皆さんのなかで購入を希望される方がはがきで購入希望のお手紙を頂ければ、出版の際には必ずご連絡できると思います。また、そのはがきが一日でも早く「農村生活総論」の公刊の日がくる支援になると思います。連絡先は下記のとおりです。よろしくお願ひ致します。

〒三九〇三 茨城県東茨城郡内原町鯉淵 鯉淵学園鞍田純先生著作論文目録編集委員会

### 同窓会館建設特別会計 中間報告 (1/20現在)

収入		金額	
募金	18,495,500		募金定期預金積立利子
利子	364,767		基本金より繰入
繰入金	2,100,000		
合計	20,960,267		
支出		金額	
募金経費	955,258		
工事費	16,500,000		総工費17,685千円のうち16,500千円支払
室内調度品	2,717,367		
設計料	300,000		
合計	20,472,625		
差引残高	487,642		
未払金			
棟並建設費	1,185,000		工事費未払分
全農	600,000		暖房機7台分
合計	1,785,000		
不足金額	1,297,358		

# 問われる同窓会館建設事業の完結

既に会報二十六号をもって、ご報告いたしました通り、同窓会館は建設され、農民教育協会に寄贈いたしました。

直接、同窓会館の維持管理の責任にあります学園は、アルバイト的管理者をお願い、保守管理にあたっております。

最近の利用者も多く、時には、一週間連続して利用されたり、同期生会が重なるなど、会員にご迷惑をおかけすることも、生じております。

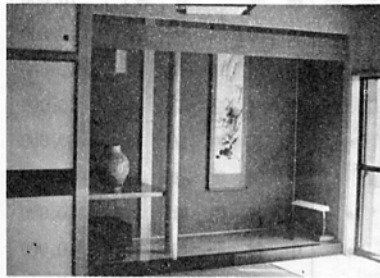
先の大会において、会館の充実を含め事業の完結をはかるために、記念事業の継続が決定いたしましたことは、これまでご報告の通りであります。この決定に基づき、重ねての募金への協力と、暖房器の設置を実施してまいりました。

募金の応募状況並びに特別会計の収支は、各表の通りです。特別会計の中間報告にありますように、未払金を完全に整理するためには、今後約百三十万円の資金が必要です。この未払金の整理が完了しない限り、昭和五十年次来取組んで来た、同窓会館建設事業の完結はありません。厚意をもって、建設工事を担当した梶並建設との契約には、工事費の支払いについて一部遅延があるとはいえ、道義的責任において、一日も早く、支払いの完了が強く要請されます。

もしも、このままの状態で、会員各位のご協力が得られないとするならば、本

会として、どのように対処したらよいか、その対策に苦慮します。同窓会という性格から、借入金も困難で、解決への道は閉ざされており、結果は、鯉淵学園同窓会の責任が問われることになりました。

募金状況を支部別にみますと、当初の支部募金目標額を見事に達成いたしました三重、奈良、和歌山学園の各支部、これに続く好募金率をあげている支部に、茨城、栃木、富山、福井、愛知があげられます。反面、募金率五十%に満たない支部も多々あります。こうした支部が学園より、比較的遠い距離にあることを考えると、感情的には、理解できないことではありませんが、会館の利用も増加し、本会の発展はもとより、母校の発展に大きく寄与する会館であることをご理解いただき、建設事業の完結のため、特段のご配慮ご協力をお願いする次第です。



▲同窓会館の和室

## 1. 支部別募金応募状況 (11/20現在)

支部名	人員	金額円	大阪	6	60,000
北海道	64	683,000	兵庫	29	325,000
青森	19	210,000	奈良	11	140,000
岩手	69	710,000	三重	16	230,000
宮城	32	430,000	和歌山	17	250,000
秋田	38	493,000	鳥取	17	180,000
山形	44	470,000	島根	25	260,000
福島	41	440,000	岡山	6	70,000
茨城	294	3,790,000	山口	39	455,000
栃木	71	940,000	広島	27	290,000
群馬	29	305,000	徳島	8	90,000
埼玉	30	491,500	香川	26	295,000
千葉	35	417,000	愛媛	2	20,000
東京	44	650,000	高知	11	110,000
神奈川	17	230,000	福岡	2	20,000
新潟	32	321,000	佐賀	12	130,000
富山	36	473,000	長崎	5	50,000
石川	16	160,000	熊本	16	155,000
福井	43	550,000	大分	6	70,000
長野	61	690,000	宮崎	26	280,000
岐阜	10	130,000	鹿児島	11	160,000
山梨	7	110,000	沖縄	24	260,000
静岡	16	230,000	学園	17	410,000
愛知	40	492,000	その他	5	90,000
滋賀	7	70,000	学園職員		300,000
京都	26	310,000	計		18,495,500

## 2. 期別募金応募状況 (11/20現在)

期別	人数	金額円	20	40	435,000
1	34	680,000	21	43	440,000
2	61	985,000	22	55	552,500
3	55	906,000	23	78	805,000
4	60	995,000	24	70	707,000
5	53	785,000	25	74	765,000
6	24	295,000	26	58	605,000
7	53	745,000	27	46	475,000
8	41	603,000	28	33	330,000
9	52	765,000	29	38	385,000
10	39	448,000	30	40	395,000
11	46	625,000	31	22	215,000
12	34	405,000	32	4	40,000
13	54	700,000	33	43	448,000
14	44	530,000	34	3	40,000
15	42	480,000	35	5	90,000
16	36	385,000	36		300,000
17	34	365,000	37		
18	33	335,000	38		
19	38	436,000	39		
通教			40		
賛			41		
職員			42		
計			1,485	18,495,500	

# 吉川先生学園長に就任

紙面の都合で前号にのせられませんが、昭和五十三年一月一日付で、副学園長の任にありました吉川先生が、学園長に就任いたしました。

前学園長の秋浜先生は、数年前から病気のため静養加療中でしたが、経過は良好、徐々に回復され、現役復帰も間もないのではないかと期待されておりました。昨年五月、学園教育をいたく心配なされ、病弱を理由として、学園長を辞任いたしました。

その後を継いで、山添理事が学園長代行として、その任にあたって来ており、新学園長の早期誕生は、各方面から強く

## ☆☆☆ 学生食堂並びに 男子浴場新築さる

☆☆☆

昭和五十三年度の国庫補助により、旧食堂に通ずる道路の右側、新築された学生寮が立ち並ぶ、向って左側の中央部に、学生食堂並びに浴場が新築された。建物面積は、食堂部分が五百五十八、三平方米、浴場部分八十五平方米で総工費は五千六百万円である。内部施設も一新し、利用している学生の表情も生き生きとしたものが感じられる。

要請されておりました。

吉川先生は、副学園長ご赴任前、農林水産省九州農業試験場長の要職にあり、学識経験も豊かで、必ず、学園を発展に導いて下さるものと思えます。

特に職員の資質向上に意欲的で、既に去る四月教育職園芸農場所属で新採用しました職員に長期研修させ、また近くは、両農場の中堅職員一名ずつの学外長期研修を決定されるなど、職員に明るい希望をもたせています。

卒業生の皆さんにおかれましても、新学園長に心からのご声援とご協力をお願いする次第です。

## 学園人事移動

### 採用

保田 禮子 53・4・1 助教  
 浦井 義郎 〃〃〃 助手  
 小林みよ子 〃〃〃 助手  
 斉藤 久枝 〃〃〃 主事  
 吉富 克之 〃〃〃 技師

### 退職

岡 千里 53・3・31 教授  
 菅原 常盤 53・7・31 主事

## 旧基礎実験室焼失す

去る八月八日、午後十時頃、築島先生の研究室から出火、旧基礎実験室の木造建物を全焼した。

この建物は、昭和二十五年頃建設された。この建物は、昭和二十五年頃建設された。作物保護、土壌肥料の各研究室並びに基礎

## 「第二回 三十一期生会を終えて」

酪農場 山本英治

私達三十一期生は第二回同期生会を、十一月四・五日に学園同窓会館に於いて開催しました。出席者四十名程でしたが一言で楽しく有意義な同期生会でした、

というのも久々仲間が集まって話題になったのは男女問わず、結婚についてでした。男性の場合だと「オイ、お前はまだまだか!」「そういうお前はなんだ」という具合で、男性は全体的にそれほど結婚について焦りは感じていないようでした、女性の場合は適齢期の為か「〇〇さんは結婚したのよ、私も早くお嫁に行かないと売れ残ってしまう」という具合に、少々焦りを感じているようでした。

近況の話題が終わると話に花が咲くのは学生時代の様々な思い出でした。

楽しかった事、辛かった事などを振り返り見て話していると、皆さんの心は、学生時代に戻ってしまつてやんちゃな一面をのぞかせて皆さん学生時代と変わらなあとという実感でした。

そういう反面社会人としての皆さんの話を聞くと様々な苦労があることを知り、

社会人二年目にしてぶつかった難問に、

礎実験室を利用して来たが、農林水産省の助成により、新しく研究実験室が建設されたのに伴ない、社会科学関係の各研究室として利用されて来た。

学園はこうした災害を防ぐために、日常の訓練や消防班を設置するなど、防火体制を強化し、今後に備えている。

最終結論は職業を問わず努力しなければ社会についていけないということです。単純な結論で誰でも解っていることではありませんが、社会人二年生が出した結論でした。

今回の同期生会で改めて学園の良さというものを感しました。学生時代の三年間、同じ釜の飯を食べ、同じ苦しさ、楽しさを味わい合った仲であるからこそ社会人としての恥も外聞も捨て思っていることを何の抵抗もなく打ち明けることができる、そして私達は永久に切磋琢磨していける、そういう学舎というのは鯉淵学園以外にないなあということ、強く感じました。

次回開催を二年後にと誓い合つて解散しました。皆さんには充分注意して頑張ってください。再会を楽しみにしています、最後に再々々のお願ひですが募金よろしく、お願いいたします。

# 昭和五十四年度 学生募集 協力依頼について

教務課長 西村 典 夫

謹啓、日頃ご無音に過ぎておりますが、同窓生の皆様には益々ご健勝のこと、存じます。

お陰様で私も一同、元氣いっぱい学園教育に精励致しております。

さて、何時もながらご支援、ご協力をいただいております「学生募集」、近年は出願者も増加し、入学者数も定員確保が出来るようになって、往時に比べ、大へん活気のある学園生活になって来ました。これというのも、終始変らぬ、皆様方のお力添えあつてのことと、厚くお礼申し上げます。

五十四年度の学生募集も、先般来、同窓会各県支部長、全国の高等学校、農業団体、その他に募集要項をお送りしてご

協力をお願いし、また、幾つかの受験雑誌や新聞等にも募集記事を掲載したり、NHKテレビ等にもPRを依頼するなど、出来るだけのことを致しております。しかし募集経費も少額ですし、手の届かぬ所も少なくないこと、心配しております。

同窓の皆様には、例年、別紙「学生募集要項」を同窓会々報に同封させていただき、特にご協力をお願いしておりますが、本年も、学習意欲に燃えた、健康で優秀な後輩を一人でも多く、ご紹介、ご推薦下さるようお願い申し上げます。

最後にになりましたが、寒気に向う折柄、一そうのご自愛をお祈り申し上げます。敬具 (53・11・30)

## 最近の学生数 ( ) 内は女子・10月31日現在

専攻科	1年生	2年生	3年生
本科	55 (1)	47 (2)	52 (2)
園芸	37 (2)	38 (1)	29 (3)
畜産	29 (29)	34 (34)	30 (30)
生活	121 (32)	119 (37)	121 (35)
合計	5 (2)		
選科	1		

総数 三六七(一〇六)名

## 事務局だより

### 同窓会館の利用について

前号に同窓会館利用規程を掲載いたしました。同窓生が会館をする場合は、団体個人を問わず、同窓会事務局に申込んで許可を得ることになっております。

会館には、常駐する管理者がいないために、食事の準備はできず、その他全てがアフターサービスとなっております。利用客になつたつもりで、利用の仕方を記してみます。

一、学園に着いたら、先ず総務課に行き、係又は当直者に利用手続きをしてある者であることを告げ、必ず利用方法を聞いてから、キイを受け取り、来賓宿舎北側にある会館に行く。

二、玄関の鍵を開けて中に入る。電灯スイッチは、右側壁の中央部に取付けてあるので、スイッチを入れ点灯する。

三、会館の中で、寝室として利用できる部屋は、洋間、和室十五帖、八帖、六帖の四つである。どの部屋を使うかは、他に利用者がいない場合自由である。一般的には和室八帖が適当であろう。

四、各部屋とも押入れを開けると夜具一式が入っている。ぬまき、シーツ等が見あたらない場合は、和室六帖の押入れに洗濯されたものが必ずある。

五、風呂は、台所(北側中央部)の戸をあけて入り、出口ドア附近左側の壁にあるスイッチを入れると、自動的にボイ

ラーに点火され、約十分後、風呂のコックをひねると温湯がでる。全開すると瞬間湯沸器と同様に温度が下がる。適当に調節するとよい。風呂利用後は、必ずスイッチを切る。洗面の場合も同様にして温湯が利用できる。

六、湯茶の利用は、台所にガスコンロ他一式があるので、これを利用し、利用後は跡始末をすること。

七、食事は学生食堂(一食二七〇円)を利用するか、正門横交差点附近にある食堂を利用するとよい。但し、学生食堂は、夕食五、〇〇/五、四〇分、朝食七、三〇/八、一〇と時間が限られているので注意する。会館内でも電子レンジの準備もあるので、弁当を準備して来るとよい。めん類なら何時でも調理できる。

八、使ったぬまき、シーツは廊下に出し、火気、戸締りを十分点検して、玄関に錠をかけ、キイを総務課に返換する。

九、利用料金は、必ず係又は当直者に支払うこと。

以上、会館の利用方法について記しましたが、私達の同窓会を念頭において、大いに利用していただきたいと思ひます。

振替用紙の同封についてのお願い

再三、何人かの会員から、募金と会費を送金したのに、振替用紙同封は失礼ではないか、とのご注意がございました。おっしゃる通りなのですが、専従職員のない事務局では困難です。この点ご理解を賜りますようお願い申し上げます。